

看護学概論

人間健康学部 看護学科 教授

大城 凌子



授業概要

看護とは何か、看護の専門性・自律性、看護の対象理解、健康・生活・倫理・看護提供システムなど、看護学の主要概念を体系的に学ぶ導入科目。講義・討議・演習・グループワークを組み合わせ、看護実践を支える理論・倫理・歴史・制度を総合的に理解することをめざす。

「心が動く瞬間」を学びの起点にする授業づくり

専門概念よりもまず 心が動く瞬間 をつくることを重視している。大城先生ご自身の経験談、家族の事例などを用いて「自分なら？」と考える入口をつくり、そこで生まれた気づきから看護の本質へと導いていく。知識よりも“感じること”を起点にする授業が大城先生の特徴である。



担当教員からのポイント

Point1 : 自然の写真と音で心を整え、学びへと導く

授業冒頭で、大学周辺の自然や季節の写真、鳥の声を提示し、緊張しがちな1年生の心をほぐす工夫をしている。「この写真どこでしょう？」という問いかけが学びの入口となり、講義内容への集中力と受容性を高めている。

Point2 : 自己開示と経験談で“自分も学べる”という安心感をつくる

大城先生ご自身の学生時代の悩み、不本意な進路選択、看護師としての体験を率直に語り、学生が「完璧でなくてよい」と感じられる心理的安全な学習環境をつくっている。教員のリアルな語り、看護の専門的内容への理解も後押ししている。

Point3 : 意思決定のリアルな事例で、看護の本質に気づく機会をつくる

家族の心臓弁置換術に関する選択など、正解のない価値判断が必要な事例を提示し、“自分ならどうするか”を考えさせる。この“心が揺れる経験”が、倫理・対象理解・看護観の形成へと自然につながっていく。

単位 2単位

開講 2025年度前学期

授業形式 講義

対象 看護学科1年次

履修者数 87名

問すべての平均点 4.74

履修学生・授業コメントからのポイント



履修学生の声

Point1 : 自分の看護観を深める“内省の時間”になった

「自分の看護観を見つめ直す機会になった」「看護師としてどうあるべきか考え続けた」という声が圧倒的。講義内容や新聞づくりを通して、正解のない問いに向き合い“自分なりの看護”を言語化する力が育った。

Point2 : 理論家新聞・討議・グループワークで理解が深まった

看護理論家の学習をポスターセッションや討議で繰り返すことで、単なる暗記ではなく、知識が自分の経験・価値観と結びつく実感を得た学生が多い。

Point3 : 先生の経験と語りが“学ぶ姿勢”を変えた

大城先生自身の臨床経験・意思決定の話・看護の倫理的視点が、学生のモチベーションを大きく高めたという声が非常に多い。



授業評価コメントより

Point1 : 自分の看護観を見つめ直し、軸をつかむ機会になった

Point2 : 理論家新聞・討議で、知識が自分ごととして深まった

Point3 : 先生の経験談から、看護のリアルと責任の重さを学べた

Point4 : 多様な意見を共有することで、視野が広がり成長を実感したなど